

神奈川県
SDGs社会的インパクト評価実証事業

業務報告

2019年3月22日
ケイスリー株式会社

はじめに

- 本業務の成果物は以下のとおりである。本資料は2に当たる。

	資料名	位置づけ・概要
本体資料	1 業務報告（要約）	本業務全体の報告（要約）
	2 業務報告 «本資料»	本業務全体の報告
	4 実証事業の評価ワークシート	5つの実証事業の評価実施において使用した評価ワークシート集
	5 実証事業のインパクトレポート	5つの実証事業の評価の結果をまとめた報告書集
	3 SDGsインパクト評価実践ガイド	実証事業を基に作成した評価実践ガイド（解説+評価ワークシート+手引き）
	6 社会的投資拡大に向けた課題と対応策	社会的投資の動向や事例、今後に向けた課題整理等
	7 人材育成に向けた検討	人材育成に向けた研修案や基本計画の策定等
参考資料	A 社会的インパクト投資とは	本事業の前提となる社会的インパクト投資の概念を説明
	B 委員会資料	本事業で3回開催した委員会資料
	C 委員会議事メモ	本事業で3回開催した委員会の議事メモ
	D SDGs評価指標一覧	SDGsに関する国内外の主要な指標一覧

1. 本事業の目的、将来像、位置づけ
2. 本事業の成果
 - 2-1. 「SDGs×評価」の取組み、成果、課題
 - 2-2. 「SDGs×評価×金融」の取組み、成果、課題
 - 2-3. 人材育成の取組み、成果、課題
3. 本事業の実施方法
4. 来年度以降に向けた提言

1. 本事業の目的、将来像、位置づけ
2. 本事業の成果
 - 2-1. 「SDGs×評価」の取組み、成果、課題
 - 2-2. 「SDGs×評価×金融」の取組み、成果、課題
 - 2-3. 人材育成の取組み、成果、課題
3. 本事業の実施方法
4. 来年度以降に向けた提言

背景

- 2015年9月、2030年までに達成をめざす世界共通の目標として、SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)が国連で採択された。しかし、その達成に必要な資金は公的資金だけでは不十分で、民間資金の呼び込みが不可欠とされている。
- 一方、近年はインパクト投資やESG投資など、財務リターンだけではなく、非財務情報に着目した資金の流れが増加しつつある。しかし、そうした資金が、効率的かつ効果的にSDGs達成に向けた事業や活動に向けられる仕組みはまだ整っていない。

目的

- そこで神奈川県は、本「SDGsモデル事業」において、SDGsの観点を組み込んだ社会的インパクト評価（「SDGs×評価」）を普及させることで、SDGsへの貢献の見える化と、それに基づく事業者の事業改善や組織価値向上を促し、さらに、新たな民間資金の流れとつなげることで（「評価×金融」）、SDGs達成への貢献を加速させる仕組みづくりをめざしている。

社会的インパクト評価とは、「社会的インパクトを、定量的・定性的に把握し、価値判断を加えること」と定義される（内閣府）。近年では、こうした価値判断を基に、事業改善、組織強化に活用していくという定義（インパクト・マネジメントの概念）が加わりつつある。

- 「SDGs×評価」により、事業者の事業改善や価値創造を促進し、新たな資金循環「SDGs×評価×金融」につなげることをめざす。

SDGs
×評価

「SDGs×評価」により、事業改善や組織価値の向上を促進する

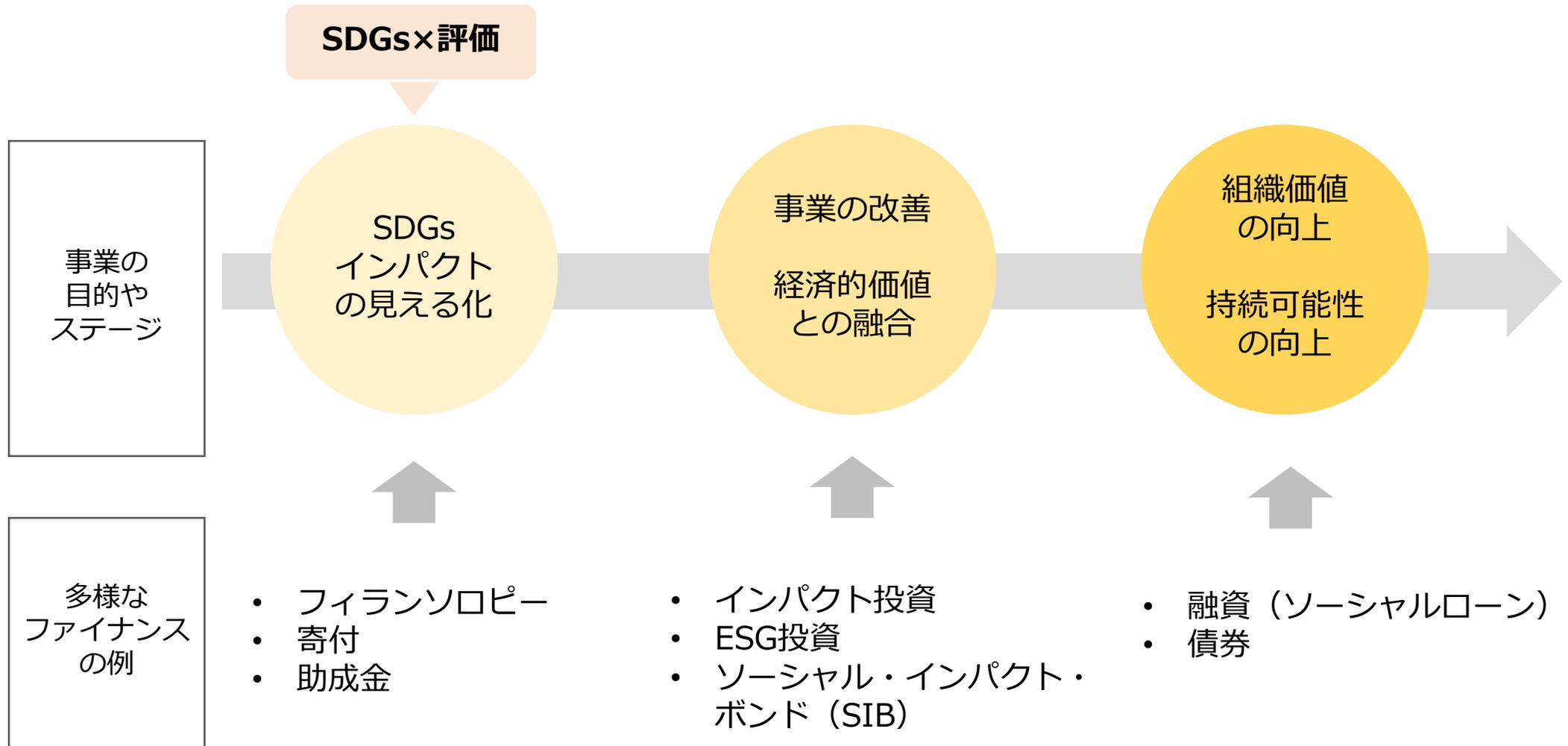
- 「SDGs×評価」により、活動→アウトプット→アウトカム→事業目標という評価から、事業目標→アウトカム→アウトプット→活動というバックキャストिंगによる評価にシフトを促し、事業の改善や変革、組織価値の向上につなげることが可能となる。
- 「SDGs×評価」により、一部のポジティブな成果だけでなく、経済・社会・環境の三側面から包括的に事業の影響（ポジティブ・ネガティブの双方を含む）を捉え、事業の改善や変革、組織価値の向上につなげることが可能となる。

SDGs
×評価
×金融

「SDGs×評価」を介して、新たな資金循環を加速させる

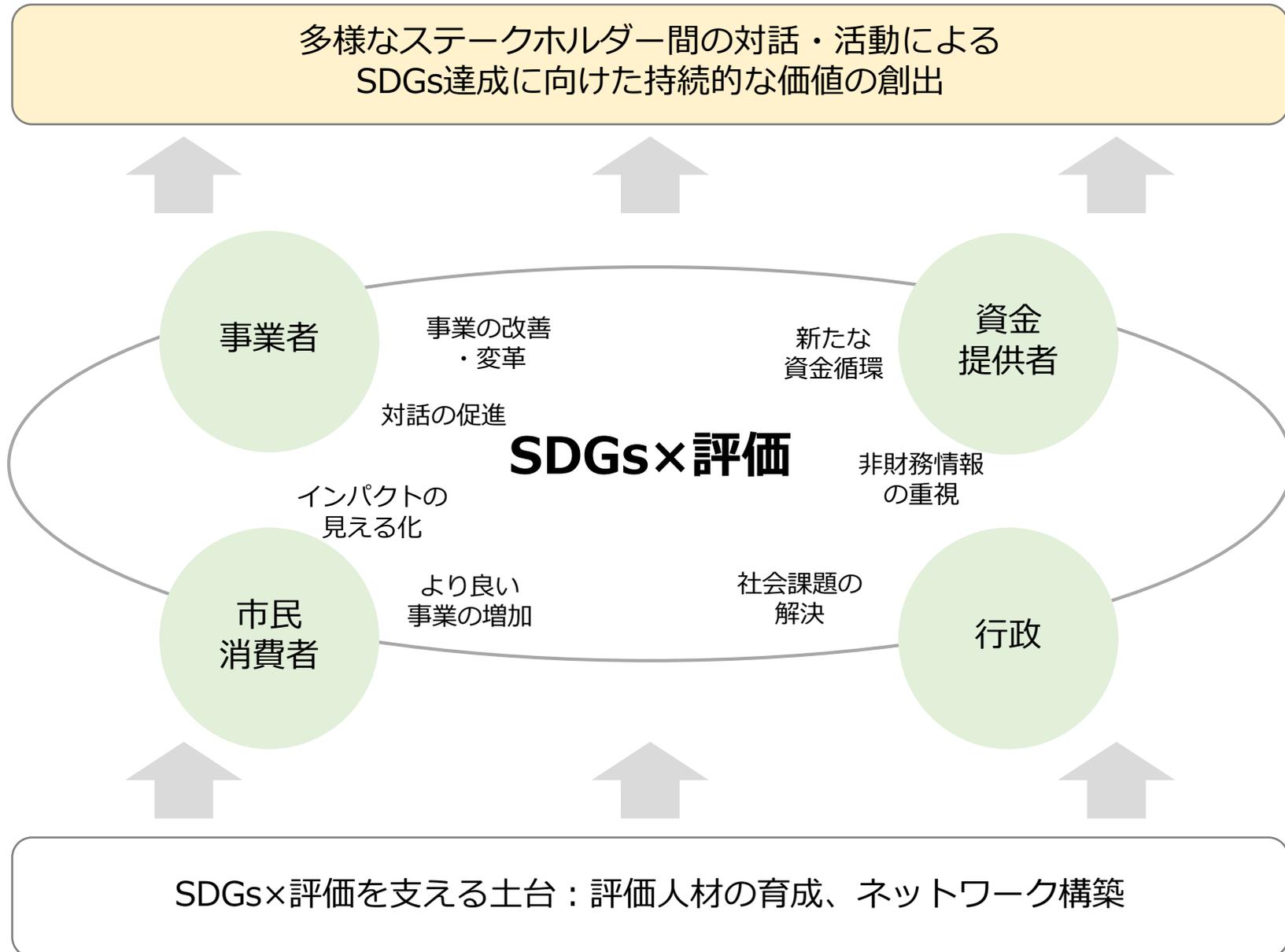
- 「SDGs×評価」を通じた事業価値の「見える化」や、事業改善・変革、組織価値の向上などにより、さらなる事業の成長や価値向上に向けた資金提供者との対話が促進され、新たな資金循環が生まれる。
- 「SDGs×評価」を軸に、多様な事業者と資金提供者との対話が生まれることにより、事業の目的・内容・ステージに合った適切な資金とのマッチングが促進される。

- 「SDGs×評価」を介して、事業の性質や目的、ステージに合わせた適切なファイナンスとのマッチングを促進し、事業の持続性や成長を後押しすることをめざす。



1-2 本事業の将来像（3/3）：「SDGs×評価」を軸としたエコシステム形成

- 「SDGs×評価」を軸として、事業者・資金提供者・市民・行政等の多様なステークホルダーの対話が促進され、持続的に価値を創出しつつけるエコシステム形成をめざす。



1-3 エコシステム形成に向けて必要な要素

- 評価を軸とするエコシステム形成に必要な要素の中で、今年度着手したものと、今後の検討課題は以下のとおり位置づけられる。

エコシステム形成に向けて必要な要素

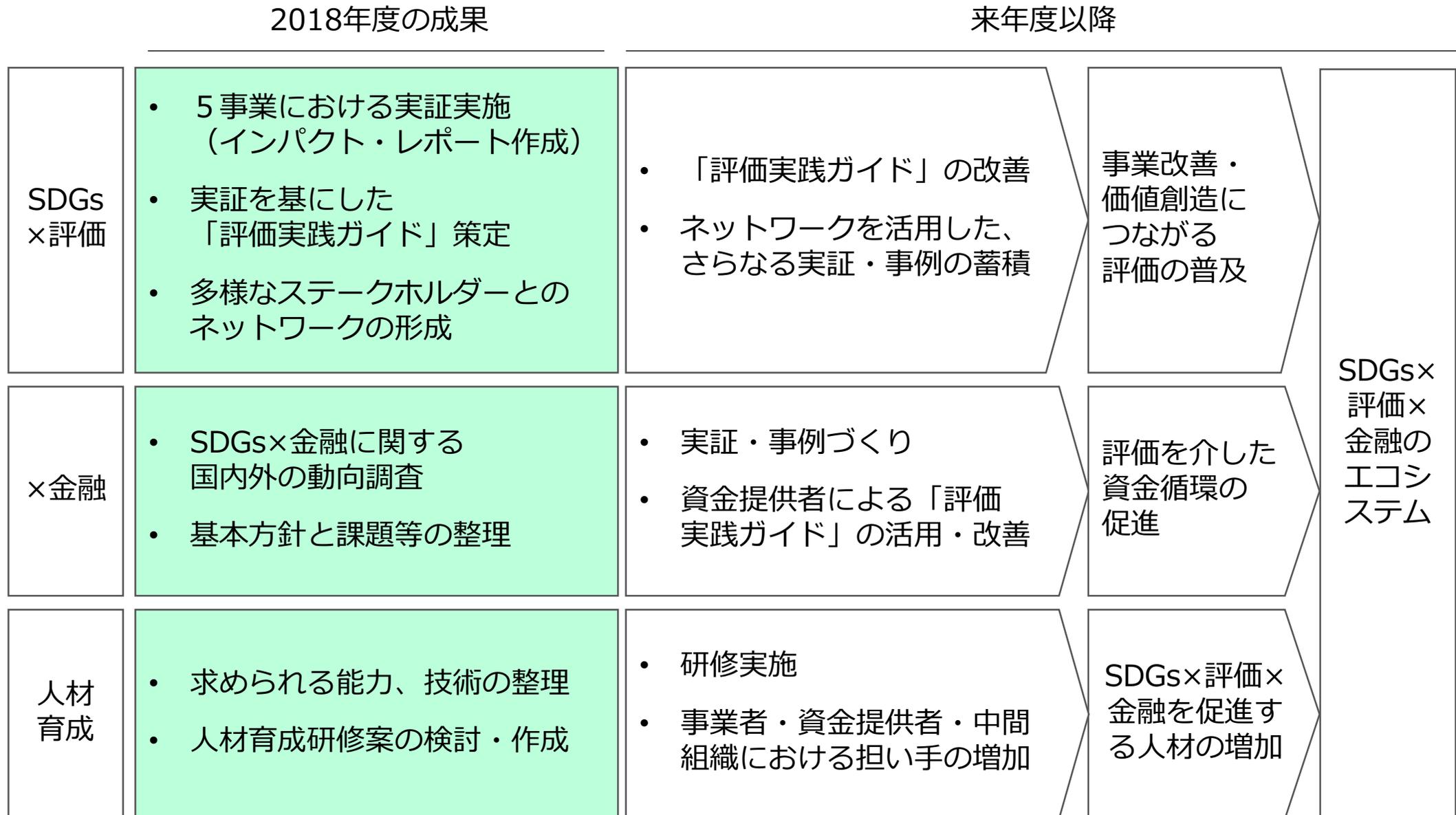
	資金需要者	仲介者	資金提供者
ヒト	経営層のリーダーシップ	人材市場の創出	経営層のリーダーシップ
モノ	評価人材の育成		
	評価実践ガイド策定		
	分野別・投資類型別の共通指標や目標の設定		
	価値創造の事例づくり	評価事例づくり	社会的投資の事例づくり
カネ	ナレッジ集約・発信のプラットフォーム創設		
	評価への投資	基盤への投資	投資スキームの開発
	評価コスト低減		
環境	インセンティブ設計		
	認知・理解度向上		
	標準手法の確立・普及		
	推進・普及体制の構築		

2018年度
着手

今後検討

1. 本事業の目的、将来像、位置づけ
2. **本事業の成果**
 - 2-1. 「SDGs×評価」の取組み、成果、課題
 - 2-2. 「SDGs×評価×金融」の取組み、成果、課題
 - 2-3. 人材育成の取組み、成果、課題
3. 本事業の実施方法
4. 来年度以降に向けた提言

- 本事業は、「SDGs×評価×金融」のエコシステム形成に向けた取組みの1年目に当たり、主な成果は以下のとおり。



1. 本事業の目的、将来像、位置づけ
2. 本事業の成果
 - 2-1. 「SDGs×評価」の取組み、成果、課題
 - 2-2. 「SDGs×評価×金融」の取組み、成果、課題
 - 2-3. 人材育成の取組み、成果、課題
3. 本事業の実施方法
4. 来年度以降に向けた提言

- 評価実践ガイドは、将来的に多くの関係者が「SDGs×評価」を実施し、それを活用した資金調達等につなげることを見据えて作成した。

SDGsの特徴と社会的インパクト評価の特徴

SDGsの特徴	<ul style="list-style-type: none">• 2030年に向けた具体的な目標が設定されている• 経済・社会・環境の3側面を包括しており、事業をより多面的に捉えることができる• グローバルでの共通目標である• 目標値は（世界全体の達成目標を視野に入れた上で）国レベルで設定可能、指標は地域・国レベルで補完されるという多様性を持つ• 資金の供給側・提供側等含めた異なる関係者の共通言語となりうる
---------	--



社会的インパクト評価の特徴	<ul style="list-style-type: none">• 事業や活動の成果を可視化することで、事業や活動における学び・改善に活用できる• 事業や活動の成果を明らかにすることにより、利害関係者への説明責任を果たすことができる• 関係者間の共通理解の形成や対話を促進することができる
---------------	--

評価実践ガイドで実現できること

- 経済・社会・環境の3側面を捉えることで、
1. 将来目標を想定し、そこを起点に現在何をすべきかについて、バックカスティングで考えられる
 2. SDGsと事業の関連付けを明確にし、可視化された成果を基に事業改善を行うことで、企業価値の向上につなげることができる
 3. SDGsという共通言語を活用し、評価を介した利害関係者との対話促進、企業価値の向上による資金循環の促進につなげることができる

- 実証事業をとおして、①概要説明、②背景の説明、③ワークシート、④活用の手引きから成る評価実践ガイドを作成した。

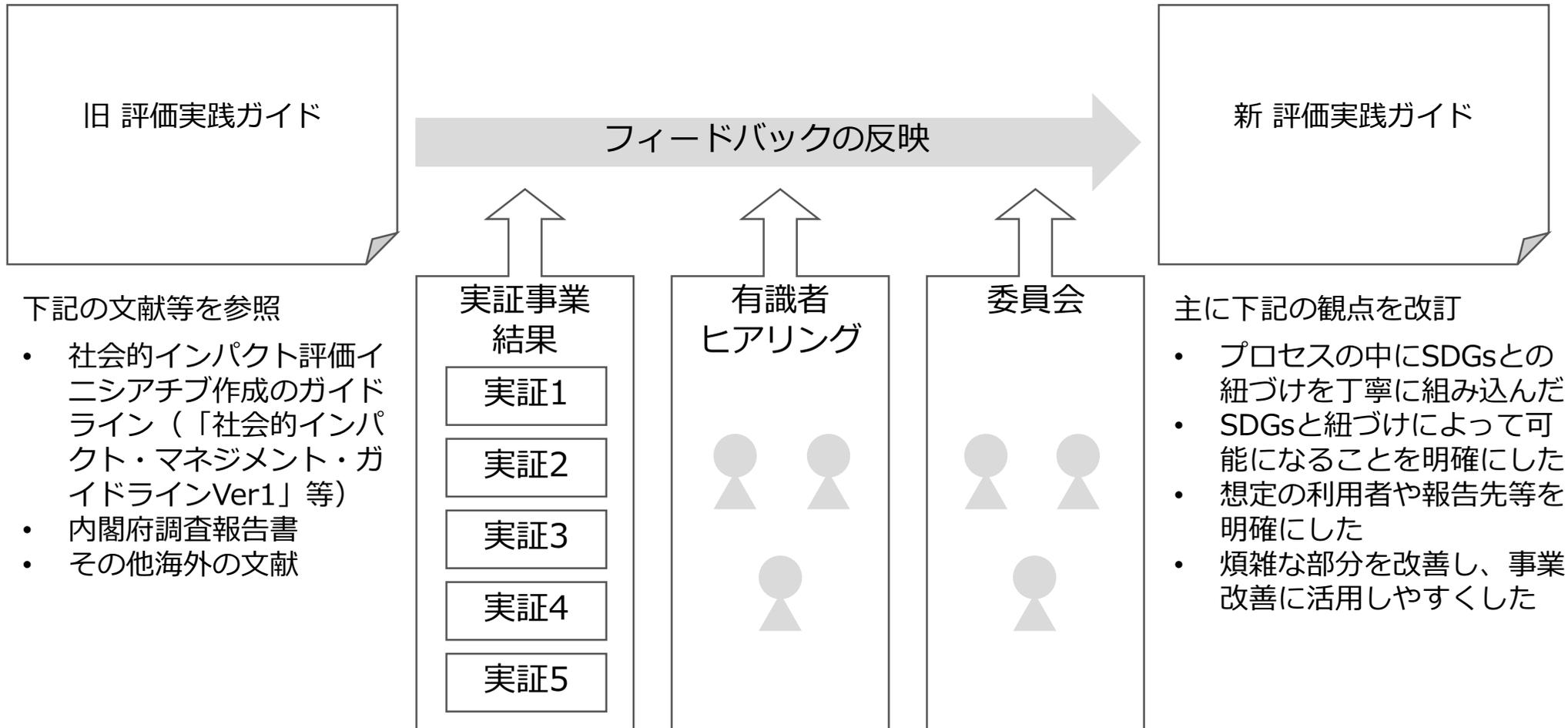
作業項目 (評価実践ガイドの構成要素)	作業概要	アウトプット	
0 実証事業	<ul style="list-style-type: none"> 評価実践ガイドの旧版を用いて5つの実証事業を実施し、そこから新版作成に向けたフィードバックを得る 	<ul style="list-style-type: none"> 5つの実証事業のワークシート完成版 5つの実証事業のインパクトレポート 各事業者、評価をとおした気づきがあり、事業改善に活用した団体もあった 	
評価実践ガイド作成	1 評価実践ガイドの概要説明	<ul style="list-style-type: none"> 評価実践ガイドを誰が、どのような目的で、どう使うかを整理 	<ul style="list-style-type: none"> SDGs社会的インパクト評価とは 評価実践ガイドの想定利用者 評価実践ガイドの目的と概要 評価実践ガイドの活用方法
	2 SDGs社会的インパクト評価の説明	<ul style="list-style-type: none"> SDGsを踏まえた社会的インパクト評価とは何かについて、定義・背景と方法を整理 	<ul style="list-style-type: none"> 定義：社会的インパクト評価とは何か 背景：なぜ社会的インパクト評価が必要なのか 方法：どう実施するのか（SDGsとの紐づけ方を含む）
	3 評価実施のためのワークシート	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい流れに沿って実施可能な評価のワークシートを5ステップで作成 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート1：課題・目標設定 ワークシート2：ロジックモデル作成 ワークシート3：指標・測定方法決定 ワークシート4：データ収集・分析 ワークシート5：報告・活用
	4 評価ワークシート活用の際の手引き	<ul style="list-style-type: none"> 上記ワークシートを活用しやすいよう、具体的な事例や記入におけるポイントを整理した手引きを作成 	各ワークシートに対する各項目の説明 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートの全体像（目的） ワークシート記入の事例 各項目の記入方法

2-1-3 実施概要とプロセス

- 事業開始前に準備した評価実践ガイド（旧版）を各実証事業で利用し、そこからの改善点を反映して評価実践ガイド（新版）を作成した。

2018年12月

2019年3月



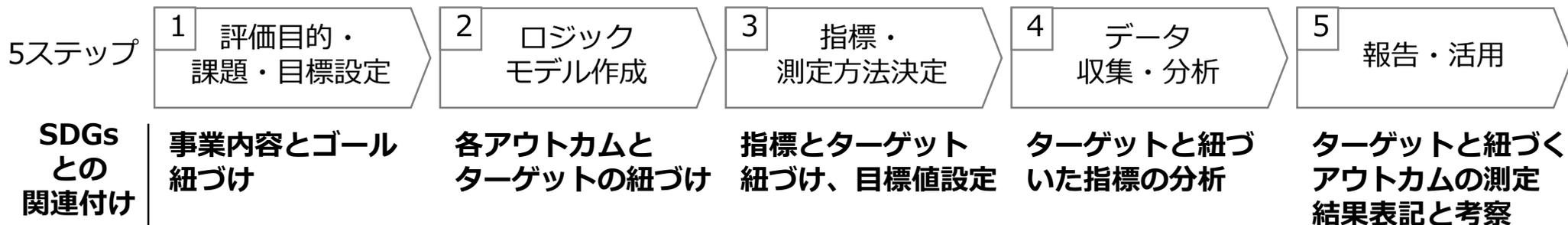
- 5つの評価実証は、Fujisawaサステイナブル・スマートタウン（FSST）の3事業と、その他の県内2事業で実施した。

社名・事業名		事業概要	関連するSDGsターゲット
1	アルケア株式会社	ロコモ予防・改善を希望するあらゆる人（主に高齢者）に、早期の行動変容を促すことで、アンチロコモ市場の開拓と同時に、健康寿命の延伸、サステナブルな高齢社会の実現をめざす	 3.8 3.d  9.5  10.3
2	株式会社 K2 インターナショナルジャパン	若者の家族への面談、セミナー、体験、ピアカウンセリングなどの支援を通じて、若者の家族（特に親）の生活の質向上と社会参加を促すことで、若者自身の自立・就労の促進をめざす	 8.6  10.2
3	Fujisawa SST (株式会社電通、パナソニック株式会社、株式会社学研ココファン)	A コミュニティケアの担い手づくり	 3.8  8.5  11.3
4		B ノンプロケアのサービスづくり	 3.8  11.7
5		C 産官学住の共創の基盤づくり	産官学住による共創的なイノベーションが創出され続けるコミュニティの基盤づくりをめざす ※ロジックモデルを使った評価ではなく、指標セットを作成する ※関連が期待できるターゲット例  8.3  9.1  11.3  12.8

- 評価実践ガイドでは、評価の基本プロセスの5ステップで整理された各ステップのワークシートと、それぞれSDGsとの関連付けを示し、その使い方を掲載している。

評価実践ガイド = 概要説明 + **ワークシート** + ワークシートの使い方

評価の基本プロセスに沿ったワークシートの構成



(例) ワークシート2

対象者	インプット (資源)	活動	アウトカム (期待の結果)	アウトカム (成果)	凡例
SDG5を推進する人(主として高齢者)	SDG5推進のための人的資源	SDG5推進のための人的資源の活用	SDG5推進のための人的資源の活用	SDG5推進のための人的資源の活用	SDG5推進のための人的資源の活用
高齢者(主として)	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源の活用	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源の活用	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源の活用	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源の活用
高齢者(主として)	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源の活用	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源の活用	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源の活用	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源の活用
高齢者(主として)	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源の活用	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源の活用	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源の活用	高齢者に対するSDG5推進のための人的資源の活用

インパクト・レポートの作成

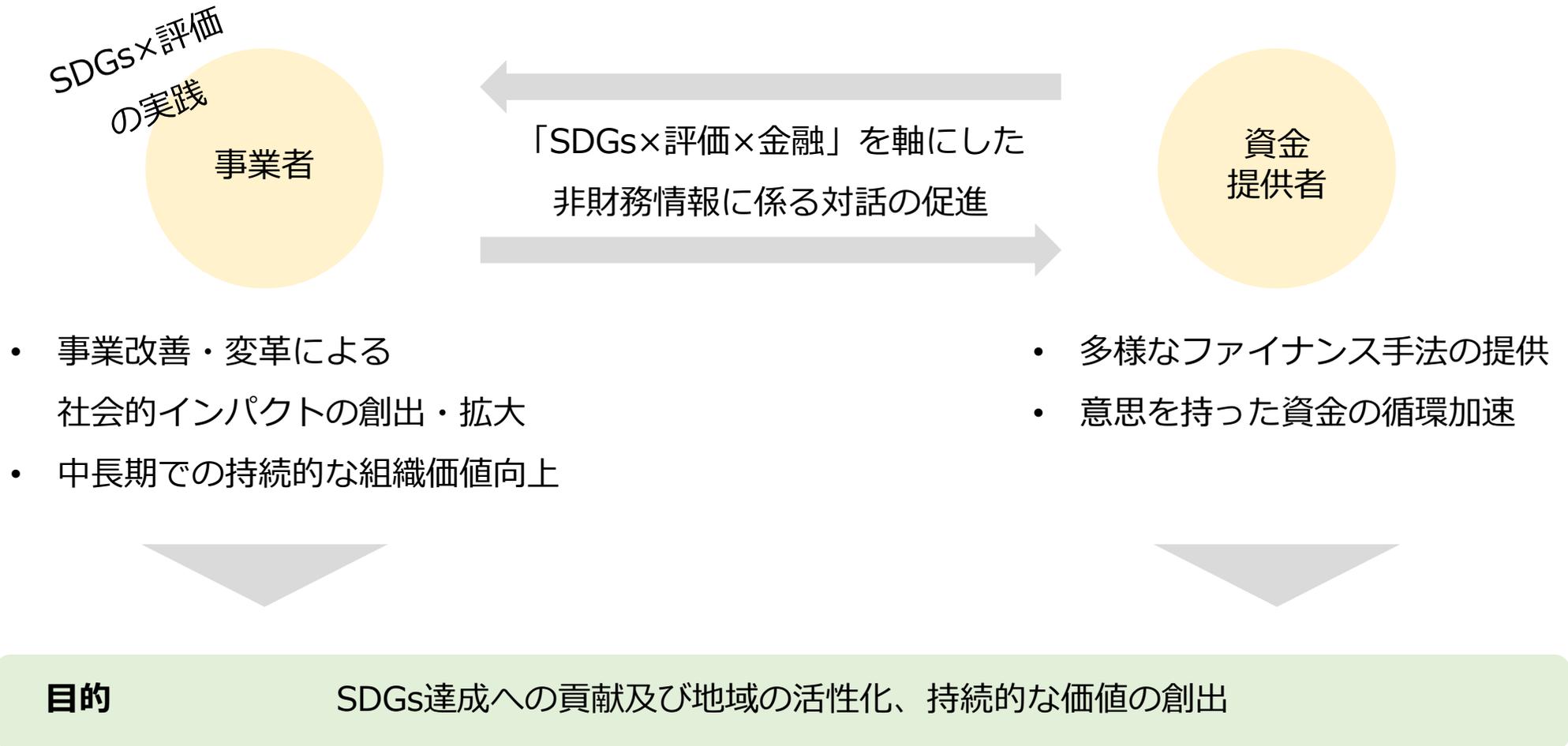
2-1-6 来年度以降に向けた課題

- 来年度以降に検討すべき主な課題は、①事業改善への活用しやすさ、②資金調達へのつながり、③実例の分野と数、の3つが挙げられる。

論点	今年度における課題	次年度想定される取り組み概要
<p>1</p> <p>事業改善への活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現状のワークシートでは成果と各活動が結び付けづらいため、成果向上のために成果と紐づく活動を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 各成果と活動が対応してわかるようなフレームワークを取り入れ、検証する
<p>2</p> <p>資金調達へのつながり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 評価実践ガイドが資金調達に関して効果があるかの検証は、実証事業の対象事業が資金調達のタイミングではなかったため未実施。今後仮説検証を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 資金提供手法毎に評価に求められる情報の精査を行い、評価実践ガイドを類型化、改訂する 資金提供者と事業者が共同で活用し、資金調達を効果的に行うための実証事業を行う
<p>3</p> <p>実証事例の分野、数</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実証した事例の分野が今年度はヘルスケアおよび就労支援のみであり、他の分野への適用可能性は実証する必要がある。また、実証数を積み重ねる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsのより広い分野（環境等）の事例を蓄積する ウェブのツール等や啓発を活用して、自発的に活用できるような仕組みを検討する

1. 本事業の目的、将来像、位置づけ
2. 本事業の成果
 - 2-1. 「SDGs×評価」の取組み、成果、課題
 - 2-2. 「SDGs×評価×金融」の取組み、成果、課題
 - 2-3. 人材育成の取組み、成果、課題
3. 本事業の実施方法
4. 来年度以降に向けた提言

- 事業者と資金提供者が「SDGs×評価×金融」を軸に非財務情報に係る対話を促進することで、意思を持った資金の循環を多様なファイナンス手法により加速させ、SDGs達成への貢献及び地域の活性化や持続的な価値の創出につなげる。



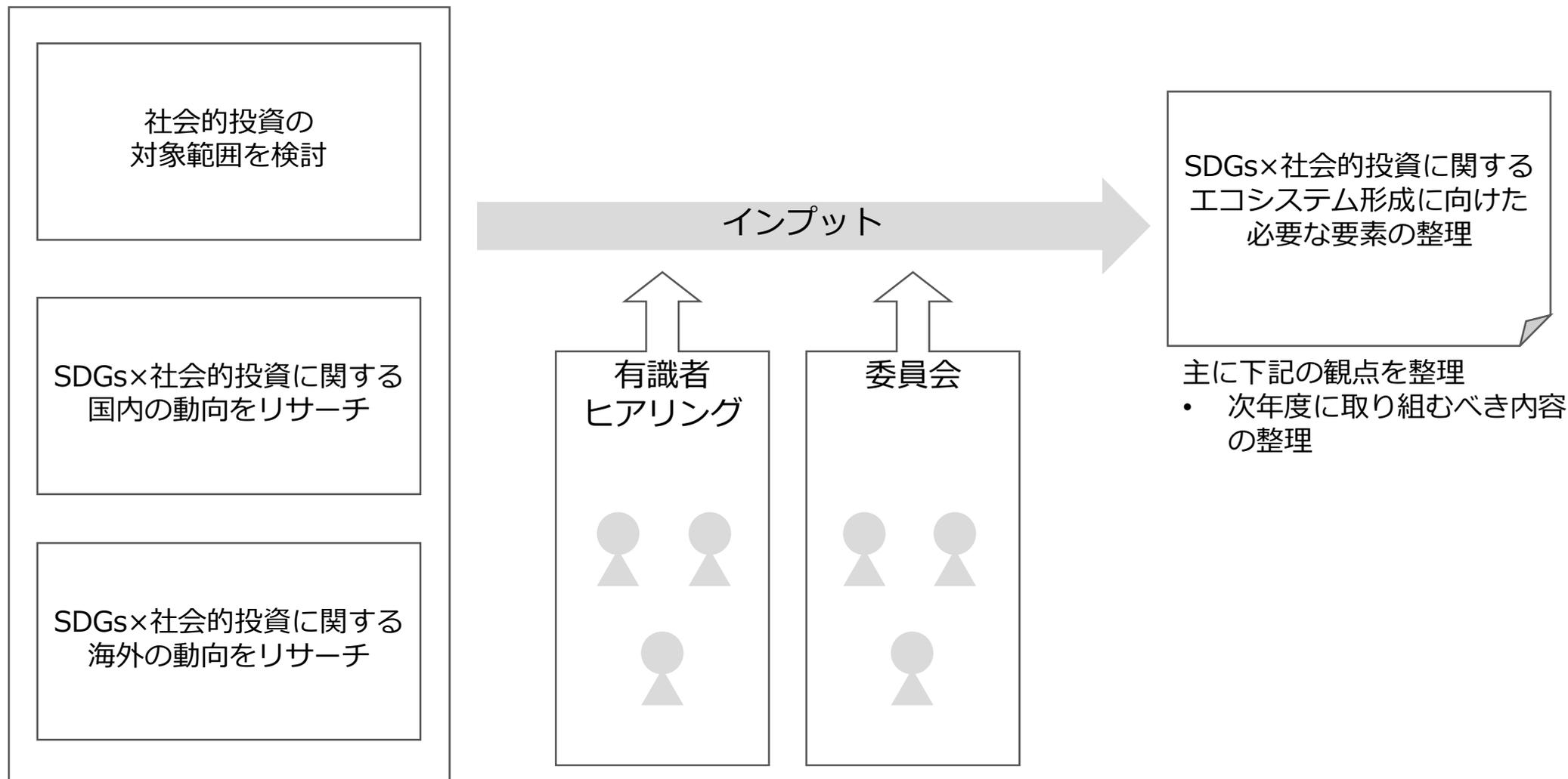
※多様なファイナンス手法とは、寄付、助成、休眠預金、SIB、インパクト投資、ESG投資等を含む

- SDGs×社会的投資に関する国内外の主な動向を踏まえ、社会的投資促進に向けたエコシステム形成に向けて必要な要素を整理した。

作業項目	作業概要	インプット	アウトプット
1 社会的投資の対象範囲を検討	<ul style="list-style-type: none"> 社会的投資の対象範囲を検討した 	<ul style="list-style-type: none"> 文献等 	<ul style="list-style-type: none"> ESG投資からインパクト投資まで様々な投資分野を一覧にまとめ、フィランソロピー（寄付等）も含めた範囲を、「社会的投資」として広く検討の対象と整理した
2 SDGs×社会的投資に関する海外の動向をリサーチ	<ul style="list-style-type: none"> SDGsを踏まえた社会的投資に関する海外の主な動向を整理した 	<ul style="list-style-type: none"> 有識者ヒアリング 文献等 	<ul style="list-style-type: none"> ESG投資、社会的インパクト投資等の各投資とSDGsとの関係を整理し、いずれでも基盤構築やネットワーク組織の設立等、グローバルでの推進や連携が行われていることが分かった
3 SDGs×社会的投資に関する国内の動向をリサーチ	<ul style="list-style-type: none"> SDGsを踏まえた社会的投資に関する国内の主な動向を整理した 	<ul style="list-style-type: none"> 有識者ヒアリング 文献等 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の省庁でSDGs×投資の会議体による検討や取り組みが行われ、金融機関においてもSDGs関連商品や取り組みの動きがあるなど、官民でSDGs×投資推進の動きがあることが分かった
4 目指すエコシステムとその形成に向けた要素を整理	<ul style="list-style-type: none"> 目指すべきエコシステムの検討とエコシステム形成に向けた論点を整理した 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会での議論 有識者ヒアリング 文献等 実証事業からの反映 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的投資促進に向けて取り組む内容を各項目で整理し、具体的には分野別・投資類型別の共通指標や目標の設定、社会的投資の事例づくり等を抽出した

2-2-3 実施概要とプロセス

- 社会的投資の定義の整理および国内外の動向を調査を通して、SDGs×社会的投資に関するエコシステム形成に向けた必要な要素の整理を行った。



2-2-4 来年度に向けた課題

- 来年度以降に検討すべき主な課題は、①多様な資金提供手法に応じた評価の類型化、②実証事例の創出、③SDGs×評価による組織価値の向上、の3つが挙げられる。

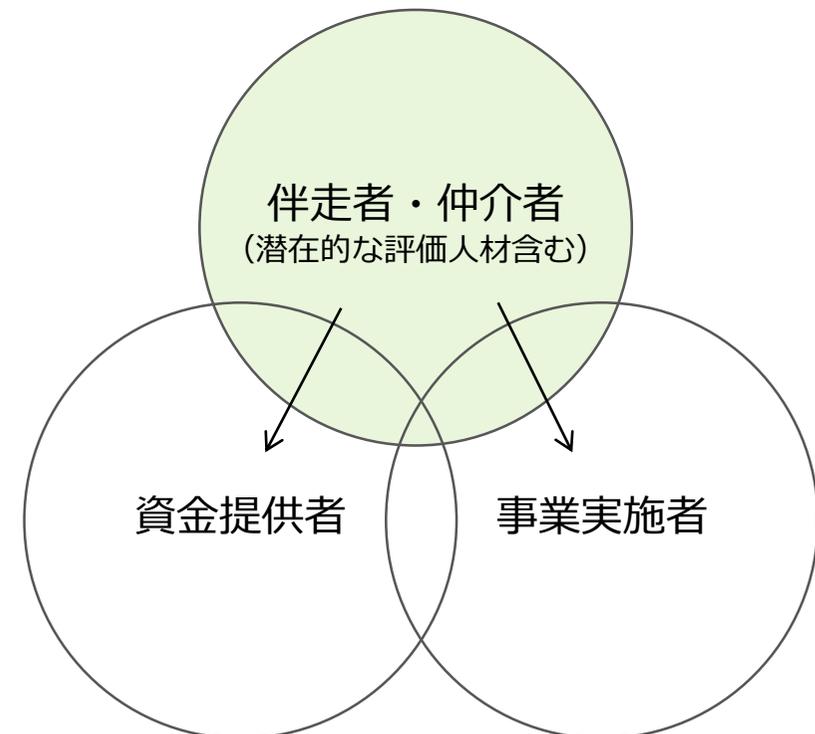
論点	今年度における課題	来年度想定される取り組み概要
1 多様な資金提供手法等に応じた評価の類型化	<ul style="list-style-type: none">資金提供手法や投資家等に応じて求められる評価が異なるため、投資手法・志向を類型化し、それに応じた評価手法の検討が求められる	<ul style="list-style-type: none">資金提供手法や投資家を類型化各投資の類型に求められる評価手法を整理
2 社会的投資につながる実証事例の創出	<ul style="list-style-type: none">より多くの資金提供者の関心を誘引するため、SDGs×評価と社会的投資が紐づく事例を蓄積する必要がある	<ul style="list-style-type: none">上記類型化のうち、神奈川県での重点領域を決定し、現状の評価実践ガイドを改訂資金提供者と評価実践ガイドを用いた実証事業を実施
3 「SDGs×評価」による組織価値の向上	<ul style="list-style-type: none">社会的投資を誘引するためには、SDGs×評価を実施することが組織価値向上に繋がる可能性を示す必要がある	<ul style="list-style-type: none">SDGs×評価による組織価値向上のロジック整理と検証

1. 本事業の目的、将来像、位置づけ
2. 本事業の成果
 - 2-1. 「SDGs×評価」の取組み、成果、課題
 - 2-2. 「SDGs×評価×金融」の取組み、成果、課題
 - 2-3. 人材育成の取組み、成果、課題
3. 本事業の実施方法
4. 来年度以降に向けた提言

- SDGs×評価を軸としたエコシステム形成・発展に不可欠な評価の担い手（評価人材）を育成することをめざす。当面は伴走者・仲介者に焦点を当てて人材を発掘・育成し、その後は、事業者・資金提供者の中での人材育成をめざす。

評価の担い手として想定されるプレイヤー

- 当面は、評価に関する知識や姿勢等のある程度有すると考えられる伴走者・仲介者を中心の対象として評価人材を育成する
- その後、資金提供者や事業実施者の中に評価の担い手を育て、「SDGs×評価」、「SDGs×評価×投資」の普及・定着を図る



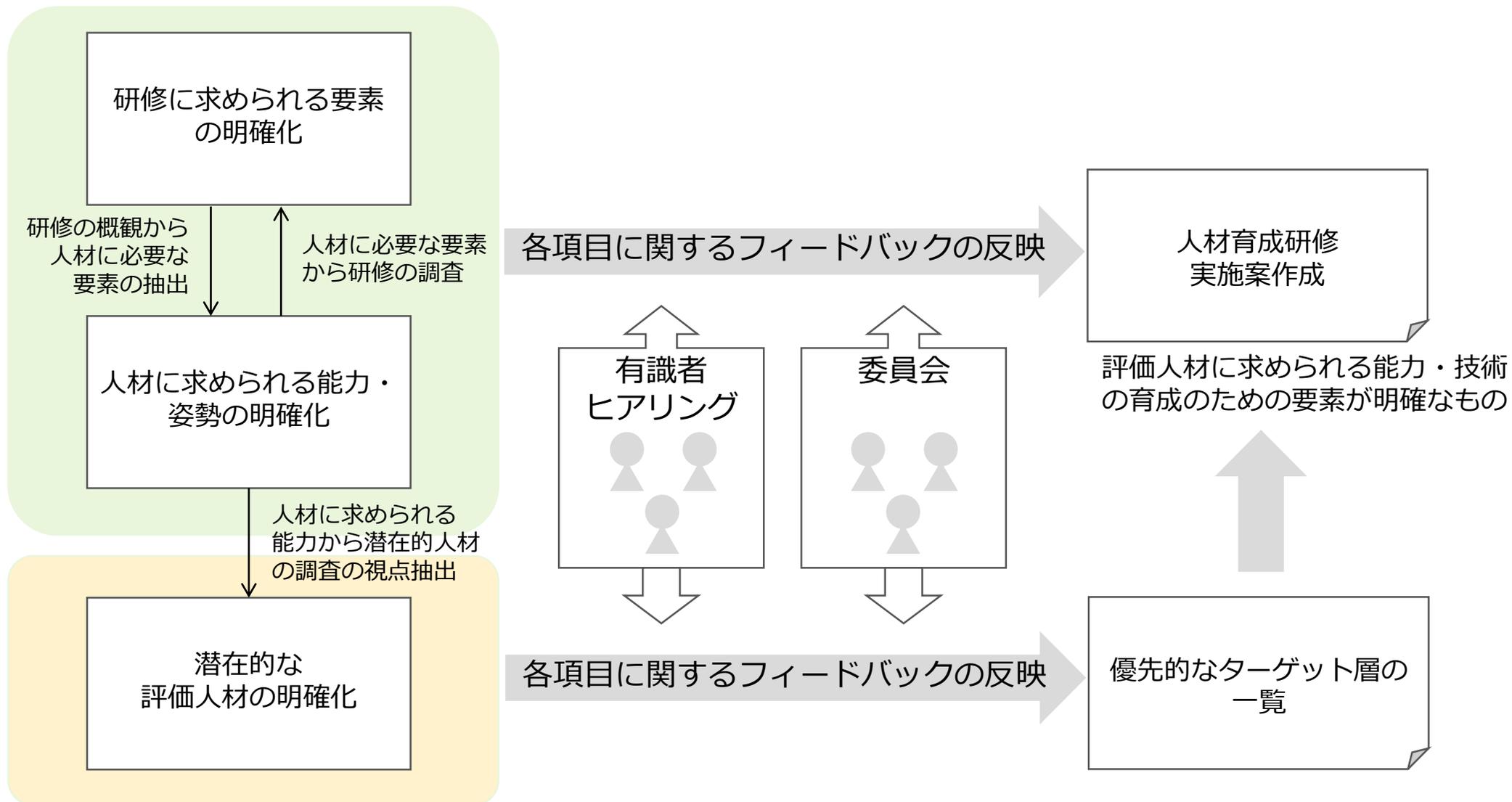
- 以下4点の作業項目について作業し、主なアウトプットとして人材育成研修案および今後優先的にアプローチするターゲット層一覧を作成した。

作業項目	作業概要	アウトプット
<p>1</p> <p>研修に求められる要素の 明確化</p>	<p>評価およびその隣接分野に関する既存の研修事業について調査を実施し、研修に求められる要素を抽出</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成研修案に必要な4要素：ファシリテーション能力・技術、経営に関する知識、サステナビリティに関する知識、評価・調査についての知識に関する項目 既存の類似分野の15研修の詳細
<p>2</p> <p>人材に求められる能力・ 姿勢の明確化</p>	<p>上記研修事業調査と並行し、評価等に関する既存の研修から人材に必要なとされる知識、能力、技術等を抽出</p>	<ul style="list-style-type: none"> 評価人材に求められる4つの能力：ファシリテーション能力・技術、経営に関する知識、サステナビリティに関する知識、評価・調査に関する知識 姿勢：聴く力、好奇心、共感力等
<p>3</p> <p>潜在的な評価 人材の明確化と ターゲット層一覧の作成</p>	<p>潜在的人材がどのような分野にどの程度存在するかを把握し、今後優先的にアプローチする層としての一覧を作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 5つのターゲット層：国際協力、他分野（教育・福祉）の評価人材、中小企業支援実施者、金融関連人材等 ターゲット層の現状の評価能力に関する特徴まとめ
<p>4</p> <p>人材育成研修案の 検討・作成</p>	<p>評価人材に求められる能力・技術の育成のための要素を明確にした、次年度以降具体的に活用できる研修案の作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研修内容（プログラム・モジュール）案：講義・演習と実習を組み合わせ、実践に重きを置いた内容 複数年度の人材研修実施計画案

2-3-3 実施概要とプロセス

- 各調査をとおり、評価人材・研修に求められる要素の明確化を行い研修案を作成した。
- 潜在的評価人材を明確にし今後優先的にアプローチするターゲット層一覧を作成した。

各調査項目



2-3-4 次年度に向けた課題

- 来年度以降に検討すべき主な課題は、①研修の詳細計画、②研修の需要喚起、③持続可能な研修の実施、④社会的インパクト評価の普及・啓発の4つが挙げられる。

人材育成における論点	課題	次年度想定される取り組み概要
1 研修の詳細計画	<ul style="list-style-type: none"> モジュール内の具体的な講座内容の明確化 適切な講師の明確化、教材の作成 評価実践ガイドとの接合 	<ul style="list-style-type: none"> モジュール別の具体的な講座内容、教材やシラバス作成 評価実践ガイドの活用を視野に入れた研修プログラムの詳細設計 パイロットとしての研修の実施
2 研修の需要喚起	<ul style="list-style-type: none"> 適切な研修受講者のターゲット設定、広報手段の明確化 研修を受けるインセンティブ設計 	<ul style="list-style-type: none"> 広報、参加者募集に関する設計 資格制度の検討
3 持続可能な研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 研修実施のインフラ（広報力、対人サービス機能、データ管理等）の強化 研修の自走 	<ul style="list-style-type: none"> 大学や研究機関等との連携の模索 資格制度の検討
4 社会的インパクト評価の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> 研修実施や需要喚起に先立ち、社会的インパクト評価の意義を伝える普及・啓発の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実証事業の成果（事業者および資金提供者にとってのメリット等）の発信

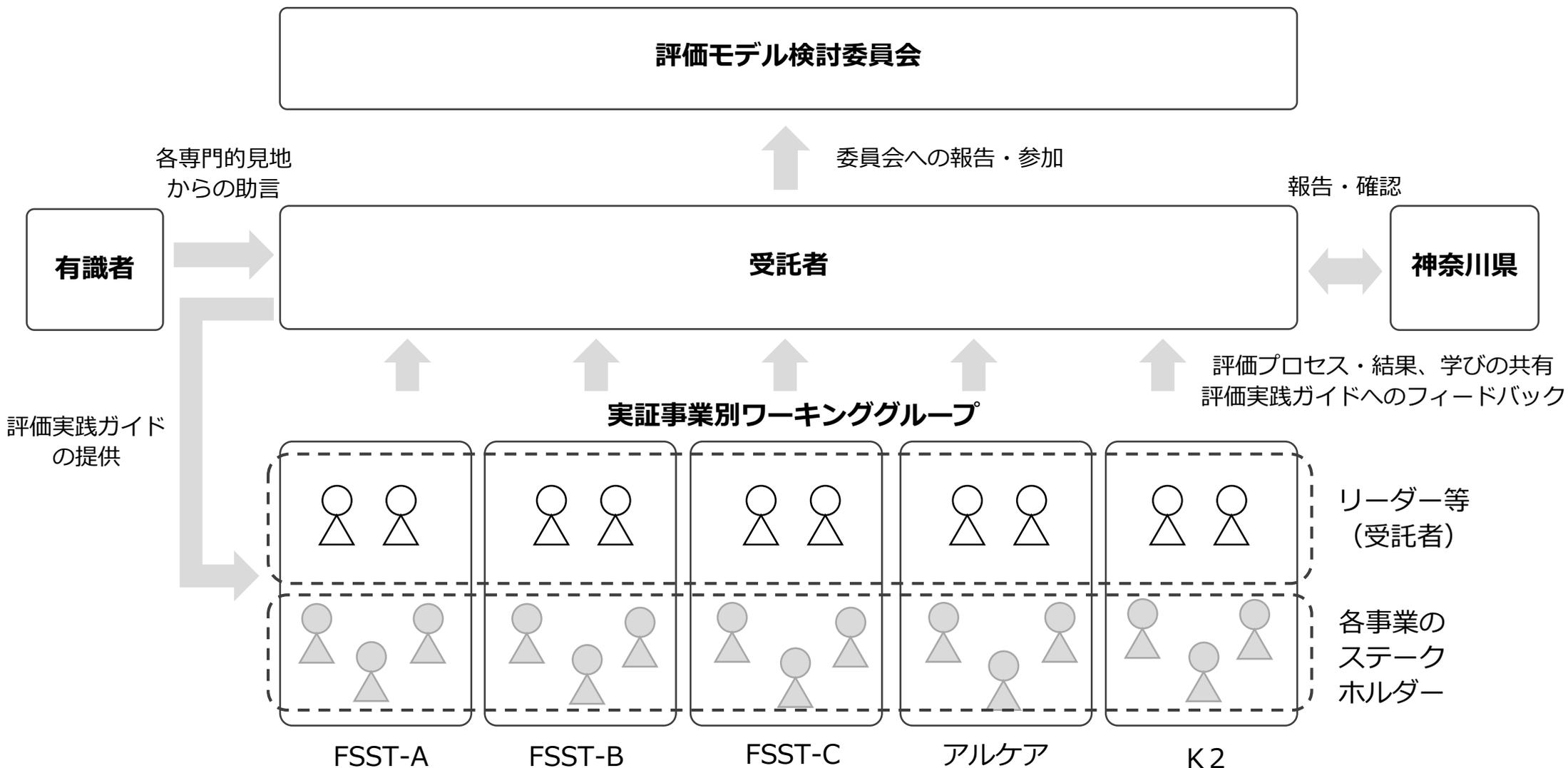
1. 本事業の目的、将来像、位置づけ
2. 本事業の成果
 - 2-1. 「SDGs×評価」の取組み、成果、課題
 - 2-2. 「SDGs×評価×金融」の取組み、成果、課題
 - 2-3. 人材育成の取組み、成果、課題
- 3. 本事業の実施方法**
4. 来年度以降に向けた提言

- 本業務は、以下4つの方針の基で実施した。

<p>1</p> <p>SDGsの観点を取り入れた先進的な評価</p>	<p>一般的な社会的インパクト評価を基礎に、SDGsの理念・思想を織り込むと同時に、具体的なゴール・ターゲットとの関連付けを加えた、先進的な「SDGs×評価」の実践と、それに基づく評価実践ガイド策定をめざす。</p>
<p>2</p> <p>事業改善、価値創造につながる評価</p>	<p>一時的な評価結果を得ることや、説明責任を果たすことのみを目的とする評価ではなく、評価を通じて事業の改善や新たな価値の創造につながることを目的とした評価実践ガイド策定をめざす。</p>
<p>3</p> <p>多くの事業者にとって実践可能な評価</p>	<p>本事業において策定された評価実践ガイドは、当面は評価の経験や専門性を有する中間支援者や評価伴走者による活用を想定しながら、今後、事業者や資金提供者などあらゆる組織にとって活用可能となることをめざす。同時に、評価を実施し、事業改善・価値創造を担う人材育成も検討する。</p>
<p>4</p> <p>社会的投資との結びつけに活用できる評価</p>	<p>評価による事業改善や価値創造が、事業者と資金提供者との対話を促進させ、社会的投資やESG投資などの新たな資金循環につながるよう、資金提供者の視点も入れた評価実践ガイド策定をめざす。</p>

3-2 実施体制 (1/2)

- 本業務は、実証事業別ワーキンググループ (WG)、受託者、評価モデル検討委員会、有識者で構成される以下の体制で実施した。



- 実証事業別ワーキンググループ（WG）、受託者、評価モデル検討委員会、有識者の概要と主な業務内容は以下のとおり。

	概要	主な業務内容
実証事業別WG	5つの実証事業ごとに、各事業の主要ステークホルダー（主には事業者）と委託者メンバーで構成されるWGを組成し、 対象事業の社会的インパクト評価を実施	<ul style="list-style-type: none"> • 事業が対象とする社会課題の整理 • ロジックモデルの作成 • 成果指標の設定 • データ取得・分析 • SDGsとの紐づけ • 事業改善につながる学びの抽出
受託者	中心的立場として 本事業を推進	<ul style="list-style-type: none"> • 実証事業別WGによる評価とりまとめ • 実証事業に基づく評価実践ガイドの作成 • 社会的投資等、民間資金の呼び込みに向けた調査、ヒアリング、基本方針の策定、課題の整理 • 人材育成計画等、支援体制整備に向けた調査、ヒアリング、基本方針やロードマップの策定 • 「評価モデル検討委員会」委員の選定及び開催運営 • 有識者の選定および諮問
評価モデル検討委員会	評価専門家・実践者、行政、事業者、金融関係者等で構成される「評価モデル検討委員会」を設置し、3回の委員会を開催	<ul style="list-style-type: none"> • SDGs評価モデル構築に向けた検討 • 社会的投資等、民間資金の呼び込みに向けた検討 • 人材育成計画等、支援体制整備に向けた検討
有識者	SDGs専門家、評価専門家、資金提供者等で構成される有識者は、各専門的見地から、本事業に対して個別に助言	<ul style="list-style-type: none"> • 各専門的見地からの助言

- 受託者は、ケイスリー株式会社と再委託先の一般財団法人CSOネットワークに所属する計10名で構成した。

担当	氏名	所属	役割
業務責任者	幸地正樹	ケイスリー株式会社	業務全体の統括・品質管理
アドバイザー	落合千華	ケイスリー株式会社	業務全体の品質管理
業務管理者	今尾江美子	ケイスリー株式会社	業務全体の管理・推進
業務担当者	今井梨紗子	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	鈴木豪	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	栗野泰成	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	今田克司	一般財団法人CSOネットワーク	業務の推進、再委託業務の管理
業務担当者	長谷川雅子	一般財団法人CSOネットワーク	業務の推進
業務担当者	梁井裕子	一般財団法人CSOネットワーク	業務の推進
業務担当者	高橋聖子	一般財団法人CSOネットワーク	業務の推進

- 評価モデル検討委員会は、以下の日程で3回開催した。各回とも、業務の進捗と連動した議題を設定し、委員及びオブザーバーによる討議を実施した。

回	日程	主な議題
第1回	2019年1月10日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ SDGs×社会的インパクト評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価実践ガイドの主たる利用者は誰か ・ アウトカムや指標とSDGsとの紐づけ方 ➤ 社会的投資との結びつけ <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討対象の範囲、今後の進め方 ➤ 人材育成計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状共有、今後の進め方
第2回	2019年2月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ SDGs×社会的インパクト評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGsとの紐づけ方（インパクトレポートにおける見せ方案） ➤ 社会的投資との結びつけ <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ評価が投資につながるのか ・ 神奈川県において実現可能なSDGs投資とは ➤ 人材育成計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価人材に必要なスキルセット（案） ・ 課題分析
第3回	2019年3月5日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 今年度の取組みについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 「SDGs×評価」実証事業の結果のレビュー ・ 実証事業を踏まえた評価実践ガイドの改善点、活用方法について ・ SDGs×評価×金融のエコシステム形成に向けて ➤ 来年度以降の展開・課題について

- 委員会メンバーは以下のとおり。評価専門家、評価実践者、本業務において評価対象となった事業者を中心に構成した。（敬称略、五十音順）

氏名		所属	役職
綾井 大介	委員	株式会社電通 ビジネス・ディベロップメント&アクティベーション局プリンシパル事業室 都市戦略・産業創生部	部長
今田 克司	委員	一般財団法人CSOネットワーク	代表理事
落合 千華	委員長	ケイスリー株式会社	最高執行責任者
志波 崇裕	委員	パナソニック株式会社 ビジネスソリューション本部 CRE事業推進部 藤沢SST推進課	
中山 省吾	委員	株式会社学研ココファン	執行役員／企画開発部 部長
山口 健太郎	委員	神奈川県	理事(いのち・SDGs担当)
米原 あき	委員	東洋大学 社会学部	教授
若林 賢彦	委員	株式会社横浜銀行 総合企画部 企画グループ	グループ長

3-6 有識者諮問 (1/2)

- 有識者への訪問概要は以下のとおり。SDGsや評価の専門家その他、融資、投資、寄付等の多様な資金提供者を中心に構成した。(敬称略、五十音順)

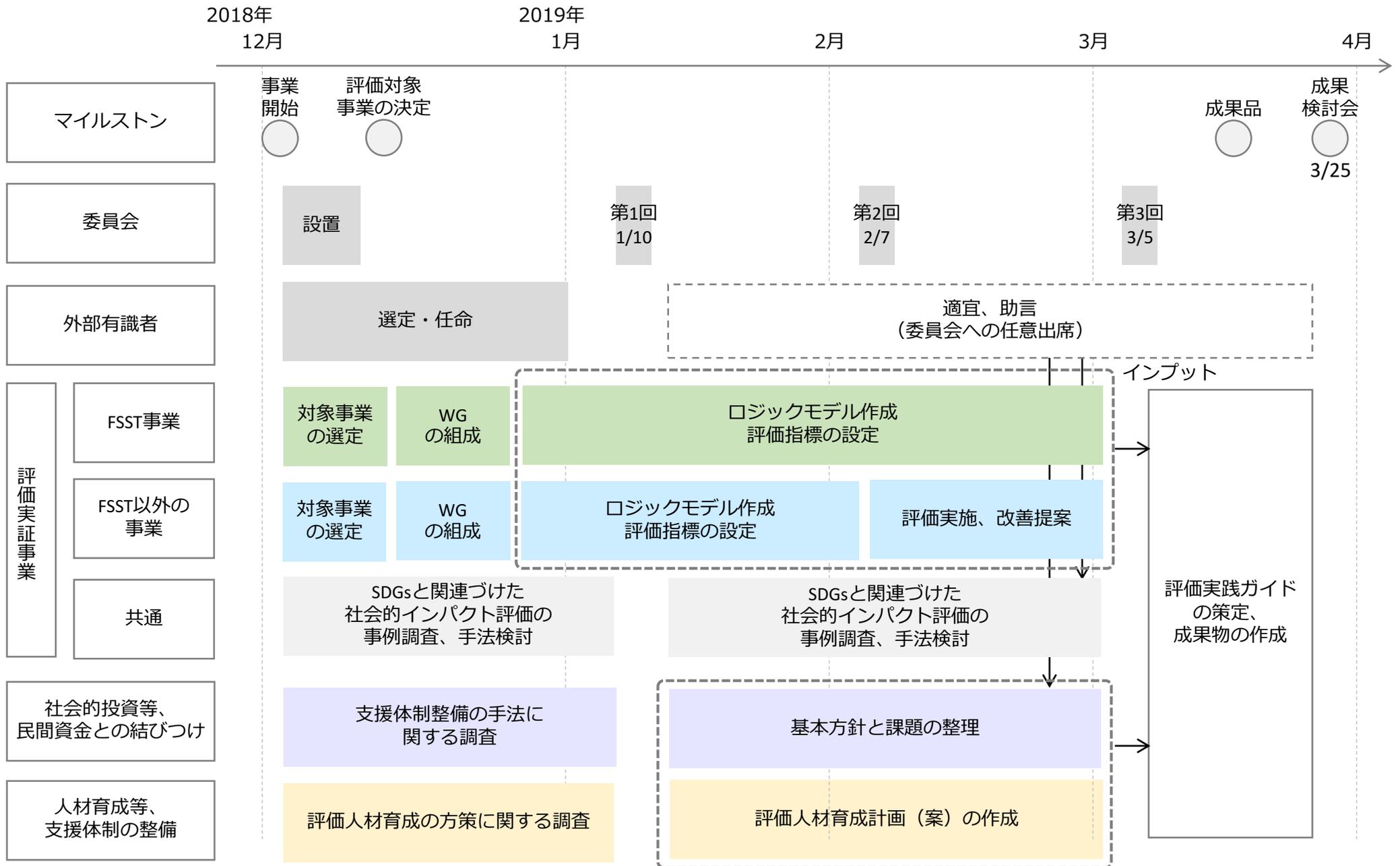
氏名	所属・役職	主な諮問内容	訪問日
蟹江 憲史	慶応義塾大学大学院教授	SDGsに関する国内外の潮流等、SDGs研究の観点からの助言	2月12日
鴨崎 貴泰	認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会事務局長	SDGs評価を寄付につなげるための課題や対策に関する助言	2月15日
河口 真理子	株式会社大和総研 調査本部 研究主幹	ESG投資の流れをSDGs投資につなげるための課題や対策に関する助言	2月19日
工藤 七子	一般財団法人社会的投資推進財団 常務理事	SDGs評価をSDGs投資につなげるための課題や対策に関する助言	2月18日
永田 綾	環境省 環境経済課 環境金融推進室 室長補佐	環境分野におけるモデル活用の可能性や有用性、資金の流れに結びつける方策に関する助言	2月15日
西村 克俊	株式会社三井住友銀行 成長産業クラスターユニット長	SDGs評価をSDGs投資につなげるための課題や対策に関する助言	1月16日
源 由理子	明治大学 公共政策大学院 ガバナンス研究科長、日本評価学会副会長	評価手法、プロセス及び分析結果に対する学術的見地からの助言	1月21日
黄 春梅	新生企業投資株式会社 インパクト投資チーム シニアディレクター	SDGs評価をSDGs投資につなげるための課題や対策に関する助言	3月1日
米良 はるか	READYFOR株式会社 代表取締役	SDGs評価をSDGs投資(特にクラウドファンディング)につなげるための課題や対策に関する助言	2月15日

- 有識者の他、以下の方々にも助言をいただいた。(敬称略、五十音順)

氏名	所属・役職	主な諮問内容	訪問日
池田 賢志	金融庁 チーフ・サステナブルファイナンス・オフィサー	金融行政とSDGsの観点から助言	2月21日
遠藤健太郎	内閣府 地方創生推進事務局 参事官	地方創生とSDGsの観点から助言	12月13日
甲木浩太郎	外務省 国際協力局地球規模課題総括課長	SDGsに係る国際動向から助言	2月21日
川廷昌弘	株式会社博報堂DYホールディングス グループ 広報・IR室 CSRグループ 推進担当部長	SDGs推進の観点からの助言	3月6日
鈴木均	一般財団法人日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)事務局次長	休眠預金活用の観点から助言	3月4日
松原稔	りそな銀行アセットマネジメント部責任投資グループ グループリーダー	ESG投資の観点から助言	3月14日
水野雅弘	株式会社トゥリー 代表取締役	SDGsアセスメントツール開発の 観点からの助言	3月13日

3-7 実施スケジュール

- 本事業を構成する業務は以下のスケジュールで実施した。



- 3月25日に本事業の成果共有のためのシンポジウムを開催。



日時：2019年3月25日（月）14:00～17:40

場所：ワークピア横浜

主催：神奈川県

後援：地方創生SDGs官民連携プラットフォーム
社会的インパクト評価イニシアチブ

事務局：ケイスリー株式会社

参加者： 216名

14:00-14:05	開会挨拶 首藤 健治氏（神奈川県 副知事）
14:05-14:25	基調講演 池田 賢志氏（金融庁 総合政策局総務課国際室長）
14:25-16:00	<p>第1部：かながわ発SDGsインパクト評価 「プレゼンテーション： 事例から創る SDGsインパクト評価実践ガイド」 今尾 江美子氏（ケイスリー株式会社 ディレクター）</p> <p>「パネルディスカッション： SDGsインパクト評価の構築・活用・普及に向けて」 <u>パネリスト</u> ・今田 克司氏（一般財団法人CSOネットワーク 代表理事） ・岩本 真実氏（K2インターナショナルグループ NPO法人ヒューマンフェ ローシップ 代表理事） ・関 良一氏（アルケア株式会社 ヘルスケア事業部 部長） ・山口 健太郎氏（神奈川県 理事（いのち・SDGs担当）） ・米原 あき氏（東洋大学 社会学部 教授） ・若林 賢彦氏（株式会社横浜銀行 総合企画部企画グループ グループ長） <u>ファシリテーター</u> ・落合 千華氏（ケイスリー株式会社 取締役COO）</p>
16:10-17:35	<p>第2部：SDGsインパクト評価と社会的投資のエコシステム 「パネルディスカッション： 非財務情報を「見える化」し、社会的投資を加速させるには」 <u>パネリスト</u> ・池田 賢志氏（金融庁 総合政策局総務課国際室長） ・江口 耕三氏（株式会社キノファーマ 取締役CFO） ・河口 真理子氏（株式会社大和総研 調査本部 研究主幹/NPO法人日本サス テナブル投資フォーラム共同代表理事） ・工藤 七子氏（一般財団法人社会的投資推進財団 常務理事） ・西村 克俊氏（株式会社三井住友銀行 成長産業クラスターユニット長） <u>ファシリテーター</u> ・幸地 正樹氏（ケイスリー株式会社 代表取締役）</p>
17:35-17:40	閉会

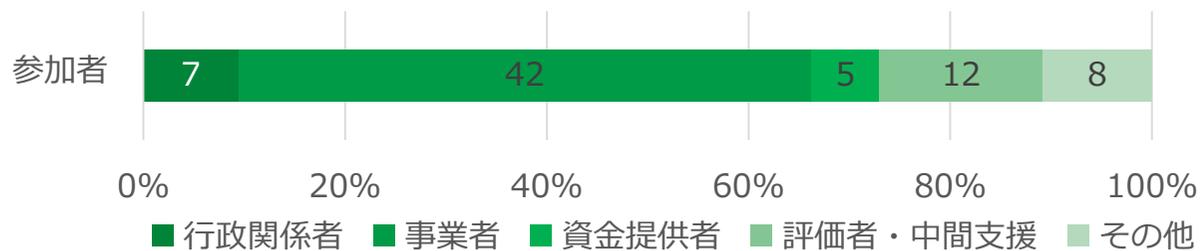
- アンケート回答者の内、参加者の所属分類としては事業者が約半数と最も多く、成果報告会全体として「有意義」と回答した割合は、平均して約55%であった。

当日の様子



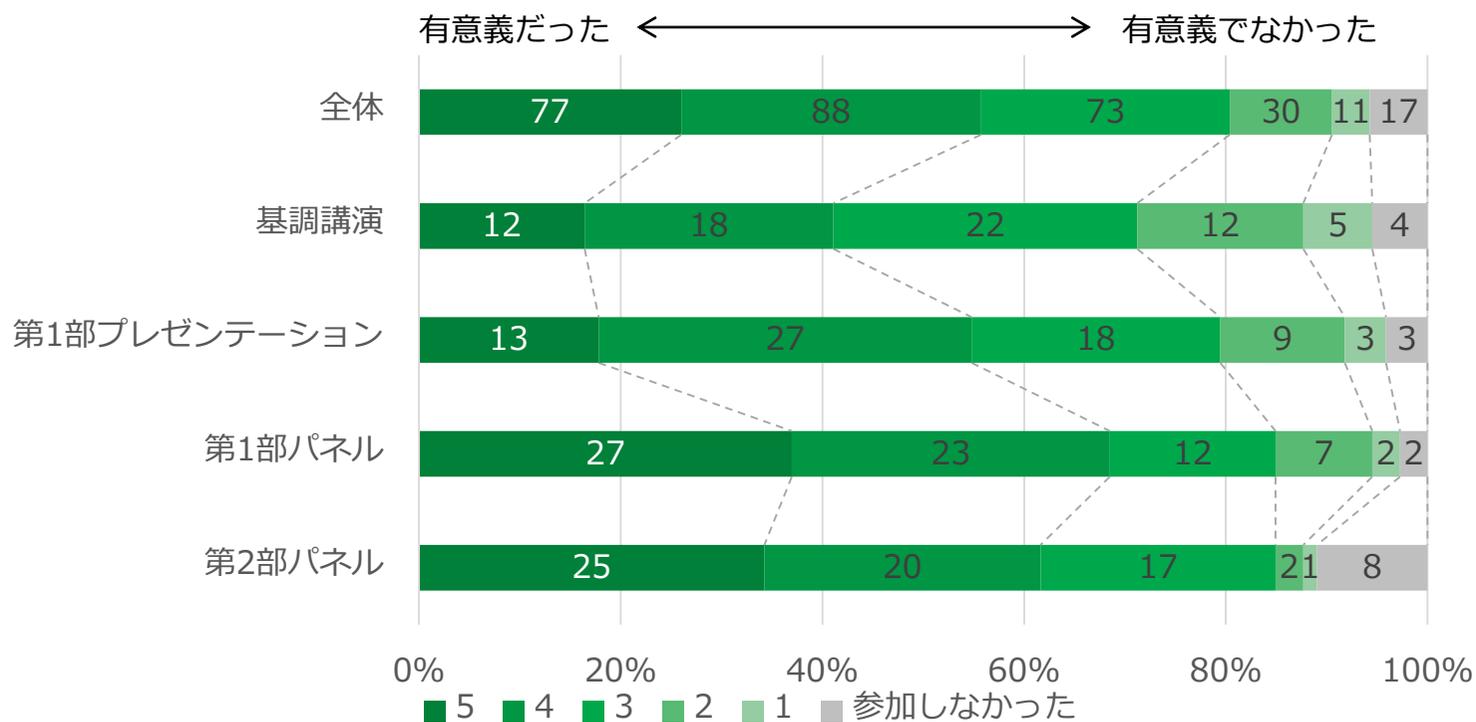
参加者の所属分類

回答数：74



各セッションを有意義だと感じたか

回答数：74



1. 本事業の目的、将来像、位置づけ
2. 本事業の成果
 - 2-1. 「SDGs×評価」の取組み、成果、課題
 - 2-2. 「SDGs×評価×金融」の取組み、成果、課題
 - 2-3. 人材育成の取組み、成果、課題
3. 本事業の実施方法
4. 来年度以降に向けた提言

- 来年度に向けた検討課題、提言（案）は以下のとおり。

	課題	対応策
1 「SDGs×評価」 の進化・普及	<ul style="list-style-type: none"> 評価実践ガイドの活用促進 評価の認知向上 評価コストの負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 評価実践ガイドの異分野（本年度の未実証分野）での活用と、それに基づく改訂・類型化 簡易版やウェブ版ガイド等の作成 評価だけではない、事業戦略を包摂的に見るフレームワークへの発展 さらなる実証の実施による事例の蓄積・共有・発信（事例集の作成等） セミナー、シンポジウム等の開催
2 「評価×金融」 の推進	<ul style="list-style-type: none"> 事例の形成、蓄積 リスクシェアリングの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 資金提供者と協働した評価実践ガイドの活用と、それに基づく改訂・類型化 「評価×金融」の具体的な案件・事例形成 リスク許容度の異なる資金を組み合わせた新たな金融スキームの開発・実装
3 人材育成、 ネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> 事業者と資金提供者のギャップを埋める仲介者の発掘・育成 評価の伴走を担う人材の発掘・育成 必要なスキルの明確化と習得方法の検討 各プレイヤーの連携促進 	<ul style="list-style-type: none"> 研修プログラムや詳細計画の策定 実施（パイロット研修）フェーズへの移行 産官学にまたがる多様なステークホルダー、キープレイヤーが連携する持続的なネットワーク・プラットフォームの形成

1. 本事業の目的、将来像、位置づけ
2. 本事業の成果
 - 2-1. 「SDGs×評価」の取組み、成果、課題
 - 2-2. 「SDGs×評価×金融」の取組み、成果、課題
 - 2-3. 人材育成の取組み、成果、課題
3. 本事業の実施方法
4. 来年度以降に向けた提言

Appendix. 事業実施の様子

アルケア



裨益者へのヒアリングの様子



ヒアリング等を基に作成中のロジックモデル

K2

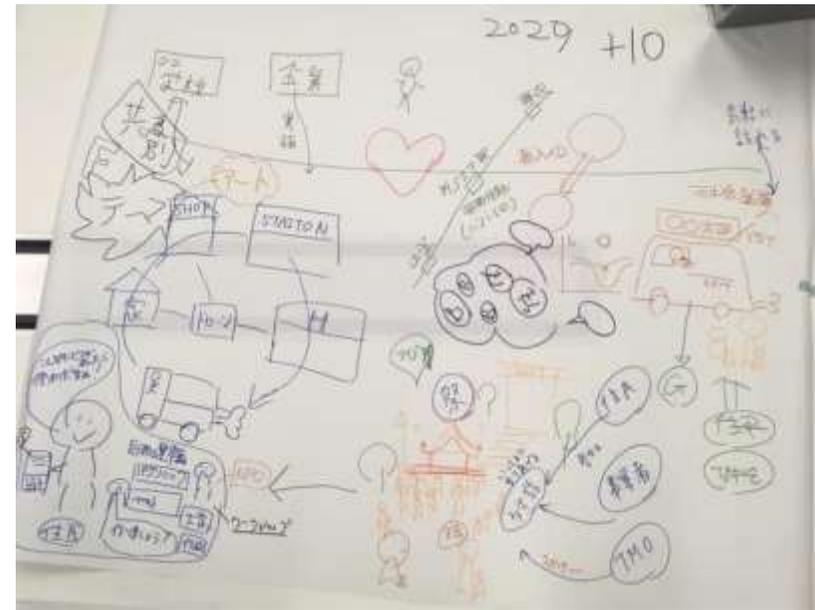


ロジックモデル作成の様子



作成中のロジックモデル

FSST



将来ビジョンについて議論し、絵（リッチピクチャー）で表現するワークショップの様子

検討委員会の様子

第1回



第2回



第3回

